経営者が描くウイズコロナの成長戦略

日刊工業新聞社は例年、九州・山口地域の経営者による座談会（通称＝ぶっちゃけ会）を開催している。コロナ禍により2021年はリモートで行ったが、22年度は参加企業の1社であるフジコーの技術開発センター（北九州市若松区）と、4月に開業したばかりの若松響第2工場を訪問、現地で座談会を実施した。ぶっちゃけ会初となる企業訪問に参加者は大いに盛り上がり、見学後の座談会では経営にかける思いや課題、また激動の世界経済について意見をぶつけあった。（司会＝日刊工業新聞社西部支社長　石堂隆史）

新業態を模索する社風に　萩尾氏
中核技術があるのは強み　清本氏
新規事業は続ける覚悟を　岡本氏

萩尾社長

既存事業の転換　新規事業の育成

―本日は研究開発から製造の現場までを詳しく見せていただきました。既存事業の転換から新規事業まで、新たなモノづくりに取り組む姿勢は素晴らしいですね。

萩尾　社風でしょうか。かつては鉄鋼の鋳型修理を主力にしていましたが、40年ほど前に鉄鋼メーカーが鋳型を使わない生産へ移り業績が低迷したことがあります。その時から、先々を見て新しい業態を模索する企業風土が生まれました。

清本　当社も以前は特定の企業への依存率が高かったため、オイルショック時に大規模なリストラを余儀なくされました。その後は失敗しながらも橋りょうや食品機械といった新規分野に参入して現在の形になりました。中核技術があるのは強みですね。

石橋　フジコー様は大学との研究開発など産学連携に成功しています。当社も含め新規事業は既存事業の延長というのがほとんどだと思うのですが、新規事業の取捨選択はどう決めるのですか。

萩尾　空気消臭除菌装置が形になったのは、大手家電メーカー出身者を中途採用して小売りのノウハウなどを確立できたことが大きいです。主業である製鉄所構内の各種請負事業も伸ばしていますが、その他のモノづくり・エンジニアリング事業の全体に占める割合が大きく増加してきました。

岡本　当社も太陽光発電パネルや半導体製造装置といった既存事業のほかに、水素インフラやバイオマス発酵処理の分野に参入していますが、なかなか足元の成果と将来ビジョンが一致しません。今日拝見した「常に夢と計画性を持ち、人生意気に感ずべし」という、フジコー様の山本秀祐創業者の言葉から、将来性のある新しいことに挑戦し、それを継続していく中でしか答えは見つからない。挑戦の大変さや勇気をあらためて実感しました。

萩尾　挑戦は大事ですが、中途半端な投資は売上高も中途半端に終わってしまいます。

岡本　新規事業は地道に5年、10年と続ける覚悟が必要だと思います。今当社は水素の生成、搬送、燃料電池（FC）関連などで、パートナーの力をお借りしながら自社技術を生かして開発しています。米国での水素を活用したマイクログリッド、港湾での大型作業車や冷蔵コンテナをFC化するプロジェクトに力を注いでいます。水素は近い将来エネルギー需給の3割近くを占める可能性がありますし、世の中をクリーンにする技術です。今成功する保証はなくとも、挑戦する価値があると思います。

清本社長

松本　私はマグネシウムに関する研究開発をライフワークとしています。自動車のホイール鋳造は新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との実証が21年に終わり、事業化に向けたフェーズに入りつつあります。また科学技術振興機構（JST）とは、マグネシウム粉末による積層造形を市販の3次元（3D）プリンターに適用する研究に取り組んでいます。

自社あるいは社会課題の解決

石橋　当社の事業ミッションは「世の中のタイヘンに挑む」です。風力発電に利用する風車部品を製造していますが、以前は「国連の持続可能な開発目標（SDGs）ど真ん中ですね」と言われても、まぁそうですねという程度でした。ただ事業内容を整理してみると、温室効果ガス削減や地球温暖化防止、国土強じん化といった社会課題解決系の分野に向いているという気付きがあり、そこをとがらせようという思いを強くしました。今、挑戦している事例の一つに全国各地の老朽化した雨水排水ポンプがあります。国土交通省の事業に参画し、置き換えに安価なエンジンと当社の歯車部品を組み合わせられないか実証実験に取り組んでいるところです。

松本　マグネシウムは世界の85%が中国で精錬されており、地政学的リスクをはらみます。NEDOは海水の濃縮過程で出るマグネシウムの精錬技術を立ち上げています。当社が精錬を事業化する可能性は低いのですが、キーデバイス開発は可能だと感じます。

世の中のタイヘンに挑む　石橋氏
マグネシウムの研究進む　松本氏

フジコーのモノづくりに対する真摯な取り組みに、参加者全員が聞き入っていた（技術開発センター）

フジコー　企業概要

フジコー（北九州市戸畑区）1952年（昭27）創業。製鉄所構内の各種請負事業を主力とし、製鉄所向けに溶接や溶射などの複合金属（ロール）製品を手がける。また各種エンジニアリング事業のほか、最近は光触媒を使った空気消臭除菌装置が事業の柱に育った。創業70周年の2022年４月には脱炭素を背景にした環境プラント事業の生産を増強するため、若松響第２工場が完成した。22年３月期売上高は約160億円。

４月に完成した若松響第２工場

出席者

石橋製作所 社長　石橋 和彦氏
清本鐵工 社長　清本 邦夫氏
長州産業 社長　岡本 晋氏
戸畑製作所 社長　松本 敏治氏
フジコー 社長　萩尾 寿昭氏
（社名50音順）

HumanTechnology
キヨモト 清本鐵工株式会社
http://www.kiyomoto.co.jp
本　社　宮崎県延岡市土々呂町6丁目1633番地 TEL 0982-24-1111
東京支社　東京都台東区東上野1-11-4 ザイマックス東上野ビル3階 TEL 03-4235-3151
福岡支社　福岡県福岡市博多区綱場町1番1号 D-LIFEPLACE呉服町4階 TEL 092-263-7522

地域未来牽引企業
FUJICO
日本アトピー協会 T1501709A
［お問合せ先］株式会社フジコー　福岡県北九州市戸畑区中原西2-18-12　〒804・0011　TEL：093・871・3724(代表)　FAX：093・884・0048　http://www.kfjc.co.jp